

私と日中友好協会②

日中友好協会岡山支部 河井伸士

今から 40 年ぐらい前に、近所に住んでいた久山専一郎さんに誘われて、日中友好協会岡山支部に入りました。当時は、岡大の渡辺教授夫妻が、支部の面倒を見ていました。

岡山合同法律事務所の嘉松弁護士もおられました。渡辺教授の後に、竹内和夫先生が加わられました。

日中友好運動が何かもわからず、中国旅行が楽しみでした。岡山市との友好都市洛陽とか、南京の虐殺記念館では、酷いことをしたものだなと思いました。内モンゴルでは広大な草原で、馬や羊があそんでいました。旧満州の龍爪開拓団跡地やハルビンの731部隊記念館も訪れました。

最初に中国に行った頃は、発展途上でしたが、改革・開放政策での工業の発展にともない、行くたびに町が大きくきれいになっていくのが印象的でした。しかし、中国が大国化していく中で、民主主義がついていないのは残念です。今こそ草の根の日中友好運動が大事かと思えます。



盧溝橋事件のビラ配布

真田

2022年7月7日(木)11時から、岡山天満屋アリスの広場前で、標記のビラを配布しました。

参加者は河井理事長と私でした。赤旗の記者の方が取材にみえていました。

配布する中で、女性の方が立ち止まり、話しかけてくれました。この事件の翌年に生まれたこと、父が満州からシベリアに抑留されたこと、父が帰国したのは小学校4年生のときだったことなど話されました。これから期日前投票に行かれるとのことで、私からもウクライナでの出来事が他人事ではないこと、戦争をすることは絶対にあってはならないので、平和を守る人に投票してくださいと伝えました。

日中国交正常化50周年慶祝大会のお知らせ

日中友好協会岡山支部 小川涼子

日中国交正常化50周年にあたる2022年の9月18日、19日には、岡山県華僑華人総会主催で慶祝大会が開かれます。

この大会で、日中友好運動の聖地である岡山のことを県内外の人に知ってもらい、また留学生らを大会に招待することにより、いっそう日中両国の友好は深まるでしょう。

日中友好協会岡山支部ではこの活動に賛同し、慶祝大会への参加、およびスタンド花・広告・協賛金の協力を呼び掛けております。何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

小林軍治先生への追悼

—兄貴であり、同志であり、愛すべき先生であった！—

青木 康嘉

軍治先生、お疲れさまでした。最後まで元気で走り続けた軍治先生のような生き方をしたいと、私も思っています。謹んで哀悼の意を示します。

軍治先生との出会いは、約60年前ですね。内山下にあった実家が岡山空襲で全焼し、戦後父の会社の社宅で生まれて、私が清輝橋に移ってきて住み始めたのが1959年でした。岡町にあった「小林食料品店」でお父さんとお母さんが働いていた。決して愛想がいいとは言えないお母さんの店は、公設市場より野菜が安かったし、よくお使いに行っていた。いつしか物心が付いた頃から「小林の八百屋さん一家は、開拓団へ行って満州から命からがら引き揚げてきた」という話は近所のよしみで聞こえていた。

軍治先生と直接知り合ったのは、高教組という組合活動や民主教育から同和教育への名称変更問題の頃からだったと思う。(ウラへ続く)



題字 平原田 親

No. 977

2022/7/15

日中友好新聞

発行所
日中友好協会
〒111-0953
東京都千代田区浅草橋2-2-3
日中ビル5F
電話 03-5839-2149(FX)
FAX 03-5839-2141
http://www.jfc-net.jp
E-mail:okch@jfc-net.jp
E-mail: 03-5839-2149

日中友好協会
岡山支部
〒705-0034
岡山市北区下伊福
西町1-59 民主会館1F
TEL: FAX 0861-258-1806

日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福成町32461-41
TEL: FAX 0861-411-7806

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.jinaa.net/
メールアドレス
nicchukayama@yahoo.co.jp



私が玉野光南高校時代に、灘崎町(現:岡山市)西七区に住む元大主上房開拓団からの聴き取り、現地訪問の旅を企画した頃だった。当時残留孤児の永住帰国も増えた。私は、開拓団や義勇軍の研究をし、さらにその当事者や残留孤児たちと共に訪中した。社研部で「残留孤児問題」を取り上げて、全国集会で構成劇を発表した。その頃岡山南高校に勤務していた軍治先生に「先生も一緒にやりましょう」と何度も呼びかけたが、ナマ返事しかなかったことを覚えている。2002年、軍治先生が定年退職された。その年母親が死亡したのを機に、日中友好協会の活動を始めたという。さんかく岡山で中国残留孤児展を企画した時、高杉久治さんが「残留孤児」の惨状を知ってほしいと軍治さんに訴えた時から活動は本格化した。中国残留孤児が60歳に定年を迎えて、国民年金の三分の一22000円と10年前後しか勤務経験がなくわずかな厚生年金では定年後生活ができない、孤児たちの多くは生活保護対象となっていた。東京ではすでに中国残留孤児裁判が提訴されていた。軍治先生の動きは早かった。奥津亘弁護士を団長に則武徹弁護士を事務局長とし、原告団長に高杉久治が就任した。2004年2月20日岡山地裁に香川県の孤児を含め27人が提訴した。この間の軍治先生の活動と運動は素晴らしかった。「研究という事では青木先生にかなわないが、運動や活動という事では私の方が一日の長があるからな」と笑って言われた。私の研究と小林先生の活動は、岡山県弁護士の提訴する上で両輪となった。軍治先生の活動は、裁判闘争の支援だけでなく、日本語教室、帰国者のつどい、「餃子作り」、望年会など活動の輪は、日本人と孤児の交流の輪へと広がっていった。

2007年11月「中国残留邦人支援法改正案」が衆参全会一致で可決された。2008年2月21日岡山地裁での提訴を取り下げた。4月から残留孤児は、生活保護に代わる国民年金満額支給、給付金制度が実現した。啓発活動の一環として、市役所での「中国残留日本人孤児問題の資料と写真展」も14回目を数える。

もう一つ、軍治先生との関わりは龍爪開拓団への友好の旅だ。2005年は奥津・則武弁護士や原告団長高杉久治の同行を得て、七虎力開拓団や龍爪開拓団を訪問した。2007年は、原告事務局長の高見英夫や織田エミ子の同行を得て、龍爪開拓団の足跡をたどった。この2回の訪問では、龍爪希望小学校との交流や小林軍治や高見英夫の住んでいた「旧日の出部落」を訪ねた。この訪問で大きな役割を果たしたのが1983年父親の小林光雄と軍治が再訪した時の写真だった。龍爪開拓団元日の出郷が確定できたのは、この時に写っていた女性の写真が決め手であった。2012年満蒙開拓青少年義勇軍村上中隊杉山勝巳の足跡を訪ねる旅の時も龍爪開拓団跡を訪ねた。2015年、2017年、2019年と龍爪開拓団を訪問した時から「元日の出郷」(龍爪四隊)の住民との交流が進み、我々も林口のホテルで宿泊し、夜は住民の人たちとテーブルを囲み、飲食をともにし、カラオケを歌う仲まてになった。こうした龍爪の住民との交流ができたのも、軍治先生の人柄や人徳であり、出生の地である龍爪開拓団への熱い思いだ。

5月31日、市役所ロビー展の精算や展示物を預かってもらいたいからと奥様の運転で我が家に来てくれたのが小林先生と会った最後となった。その時、「調子が悪くて、おなかに水が溜まっている。明日検査に行く」といわれた。岡大医学部付属病院でステージ4と診断を受け、2日から協立病院へ入院した。6月21日、病室から軍治先生の電話を受けた。「青木先生、後を頼むぞ。来年も市役所ロビー展をやってよ。井堀さんや高杉さんを頼むよ。日中の方は犬飼先生と真田さんを中心に後をやってくれると思う」「先生、何言っているんですか、来年は先生と龍爪開拓団と柳樹河開拓団へ行くんだから」「もう無理だな」「まだまだ元気な声なのに・・・」「それが寿命というもんだ」「もうええ？青木先生疲れた」

その電話から3日後、6月24日午前10時48分お亡くなりになった知らせを受けた。

6月27日の小林軍治先生の葬儀は、家族葬にもかかわらず多く教え子や日中に関わった人など軍治先生の足跡を慕う参列者がこられた。ピースサインをした遺影、軍治先生の家族を愛した人生の足跡、多くの教え子に愛された軍治先生の足跡、ちょっとした運命のいたずらで「残留孤児」になっていたかもしれない軍治先生の足跡と日中友好に注いだ人生が写真で飾られていた。

軍治先生に頼まれたことを私たち残ったものが軍治先生の様な行動力で全部ができるわけではありません。そこのお許し願って、できる限りのことをします。そしていつか龍爪開拓団を再訪する時は必ず軍治先生の遺影をもっていくことをお約束します。

軍治先生さようなら。ゆっくりお休みください。今までありがとうございました。合掌！

2019年7月28日龍爪開拓団跡「雪上屯」(元上岡山)にて、地元住民と



次回の新聞発送作業は
7月29日(金)午前10時半から
民主会館2階で行います。
前回お手伝いくださった方です。

犬飼
河井
竹内
真田